

販売店様・加工店様へのお願い

⚠ 注意

- ◎棟風本体の切り詰め加工は、漏水の原因につながりますので行わないでください。
- ◎棟風は屋根棟水平部で一番高い場所の中央部へ取付けしてください。
- ◎棟風は適する屋根と適応屋根勾配範囲内で取付けてください。
- ◎シーリング材はシリコン系をご使用ください。

お願い

- ◎施工を始めてから手直しが出ないよう事前に調査や打ち合わせを十分に行ってください。
特に設計者や工務店様と取付けスペース・工程・搬入実施日・搬入場所・施工実施日等、綿密な打ち合わせをしてください。
- ◎製品の運搬や取付けの際はキズを付けないように気をつけてください。また、他の工事が終了後養生テープを剥がしてください。
- ◎建物に取付ける部材・部品は建物のたる木等の構造物に確実に固定してください。
- ◎水平・垂直・直角は必ず正確に出してください。正確に出ていないと取付かない場合があります。
また、十分な強度が出てない場合もあり大変危険です。注意してください。
- ◎取付けの際、釘・ネジ等は規定本数を確実に締付けて固定してください。建物に孔をあけたりネジを止めたりした場所には、確実にシーリングを施してください。

適応屋根

タイプ	屋根材	屋根の形	取付部分	屋根勾配
丸型	瓦屋根	切妻及び寄棟	棟の水平部	瓦屋根 35/100~100/100
	金属屋根			化粧スレート板屋根 25/100~ 70/100
	化粧スレート板屋根			金属屋根 7/100~ 70/100

梱包内容

名称	製品記号	規格寸法	梱包内容
棟風 丸型	SRMMG09	L=910	本体(1) セット部品(1) シーラー(2) 施工マニュアル(1)
	SRMMG13	L=1366	
	SRMMG18	L=1820	
エンド	RDB1AN		本体(1) セット部品(1)
ジョイント	RD3AN		本体(1)

設計・施工上の注意

1 対応できる屋根

① 対応できる屋根材

「棟風」丸型は、棟瓦（7寸径のヒメ丸瓦又は、素丸瓦）と直接接続できる優れたデザイン性を持ってあります。瓦（フランス瓦・S瓦・和瓦）をはじめ化粧スレート板、金属板（エンドキャップ使用）などの屋根にも取付けることができます。

② 対応できる屋根の形

切妻・寄棟の屋根の水平棟に取付が可能です。

③ 対応できる屋根の構造

在来木造・枠組壁工法（2×4工法）いずれにも取付けることができます。

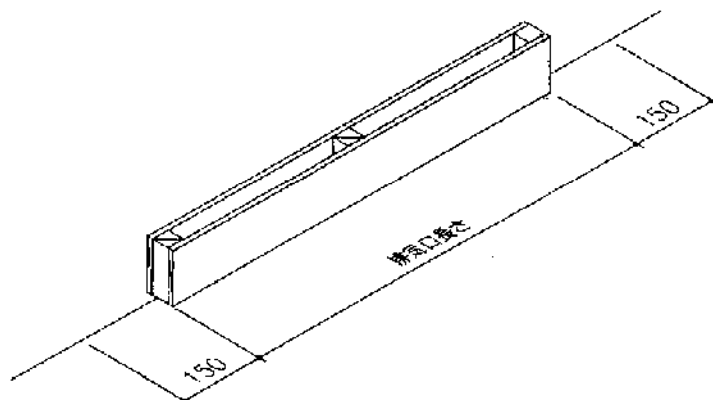
2 設計仕様

① 取付本数

・「棟風」丸型は1本あたりL=1820で約500cm²、L=910で約210cm²の排気口面積があります。公庫基準値（1/1600）によれば80m²、L=910で33m²分をカバーすることになります。

② 取付位置

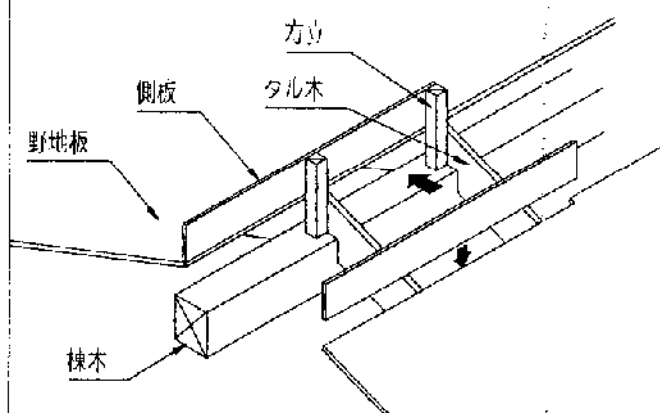
- ・棟風本体はできるだけ棟の中央部に取付ます。
- ・棟風本体の取付下地となる棟の排気口の寸法は棟風本体の両端から150mmずつ短い寸法（合計300mm短い寸法）とします。
- ・排気口の方立はタル木毎（@455）に立て両端にタル木が来ない場合は補強して立ち上げます。
- ・吸気口の位置は小屋裏全体がバランス良く換気されるように考慮して決めてください。



施工手順（モニエル瓦）

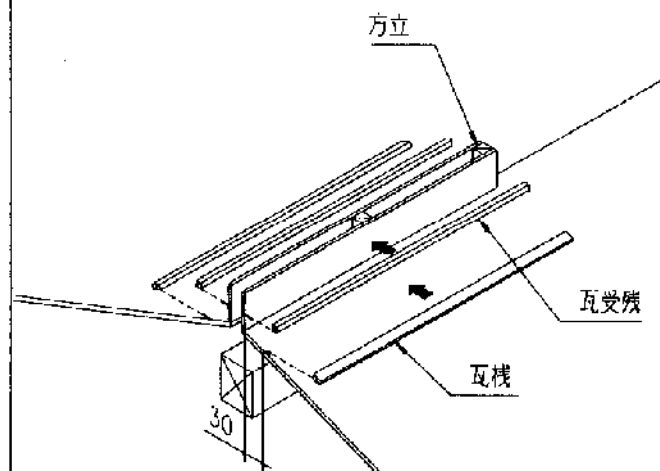
1 方立の施工

- ① 方立材はタル木（φ45.5mm）に立上げます。
- ② 方立材の高さを決め糸を張り「通り」及び「高さ」を確認します。
- ③ 野地板は排気口部分の隙間（40mm）をあけて葺き、2×4上法の場合は野地板の下に合板受けを取付ける必要があります。
- ④ 方立材の両側に合板（厚さ9～12mmを使用してください）の側板を取付けて排気口を囲みその後再度糸を張り「通り」「高さ」を確認します。



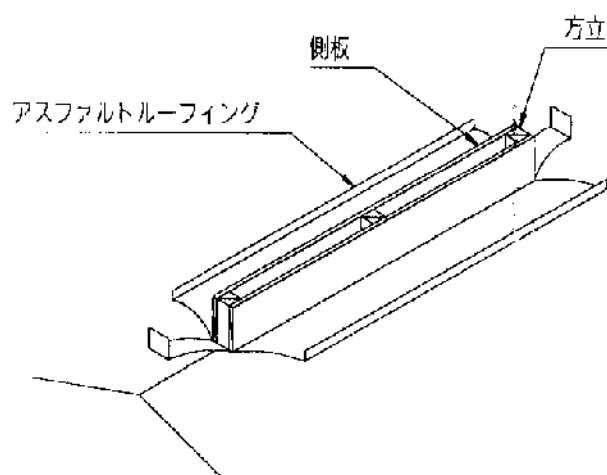
3 瓦棧・瓦受残の施工

- ① 最上部の瓦棧の位置は最上部の地瓦の上端が排気口側板のルーフィングに接するよう側板の約30mmにセットして打ちつけてください。
- ② 次に半割大面のし瓦の受棧を打ち付けますが、この際排気口のない棟の部分に施工する大面のし瓦の高さと半割大面のし瓦の高さが揃うように打ち付けて下さい。また、打ち付ける相手は側板ではなく方立材に方立毎に打ち付けるようにしてください。



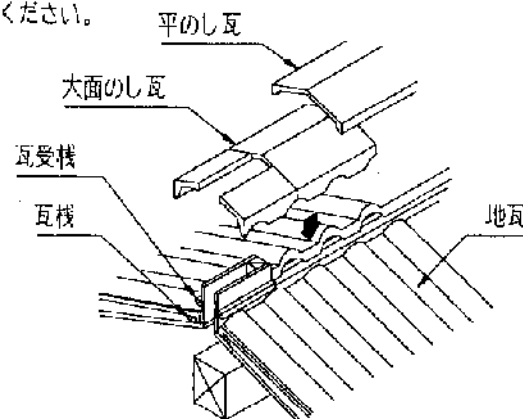
2 ルーフィングの施工

- ① 防水紙はアスファルトルーフィング22kgを使用し、方立・側板部立上りも含めて全面張りとし、重ね代は縦100mm×横120mmとします。
- ② 側板部に立ち上げるルーフィングは上部でステップ止めとし、下部は野地板にできるだけ密着させ目を小さくしてください。
- ③ 排気口の端部ではルーフィングを2重貼りするが、防水テープ（2×4テープ）を使って方立材の上にかぶせます。



4 地瓦・大面のし瓦・平のし瓦の施工

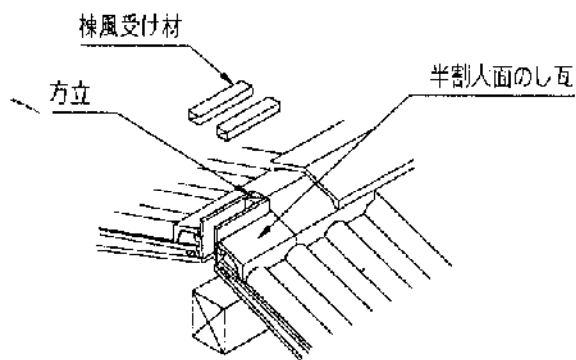
- ① 地瓦は最上部の地瓦が排気口側板に接する位置から割付けを始めます。
- ② 最上部の地瓦の上に乗る大面のし瓦は、標準の大面のし瓦を中央部で半割にし、上部を30mm程度切り取ったものを使用します。
- ③ 次に1枚当り2個の釘孔をあけモルタルで裏込めをした後、半割大面のし瓦の部分と標準の大面のし瓦の部分の「通り」が揃っているか確認します。
- ④ その後、瓦受棧に釘止めしてください。
- ⑤ 排気口のない部分の大面のし瓦及び平のし瓦は標準通りの施工としますが、大面のしと平のしは破れ目地になるように重ねてください。



施工手順 (モニエル瓦)

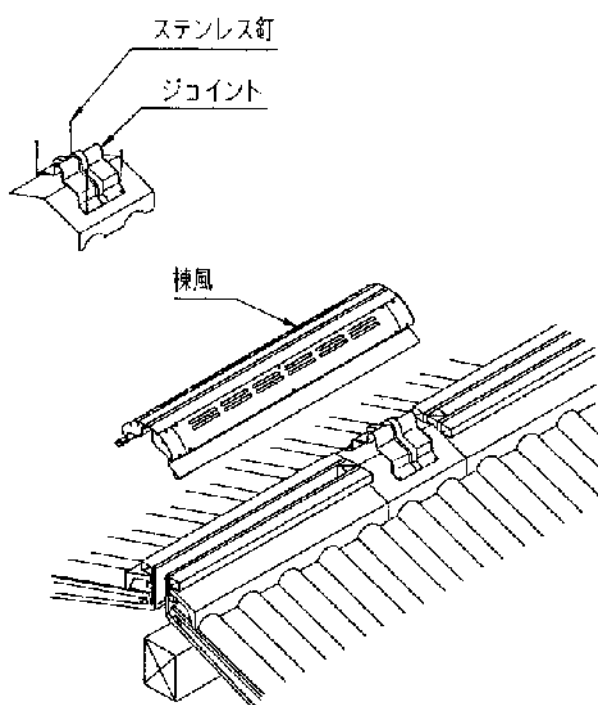
5 棟風受け材施工

- ① 棟風受け材は半割大面のし瓦の上端に接するように水平に設置し、側板でなく方立毎に打ち付けます。



6 ジョイントの施工

- ① 2本以上取付ける場合はあらかじめ本体を仮置きしてジョイント部の位置を出し、ジョイントの中心が棟風本体の継目に来るように水平を確認した上で釘止めします。



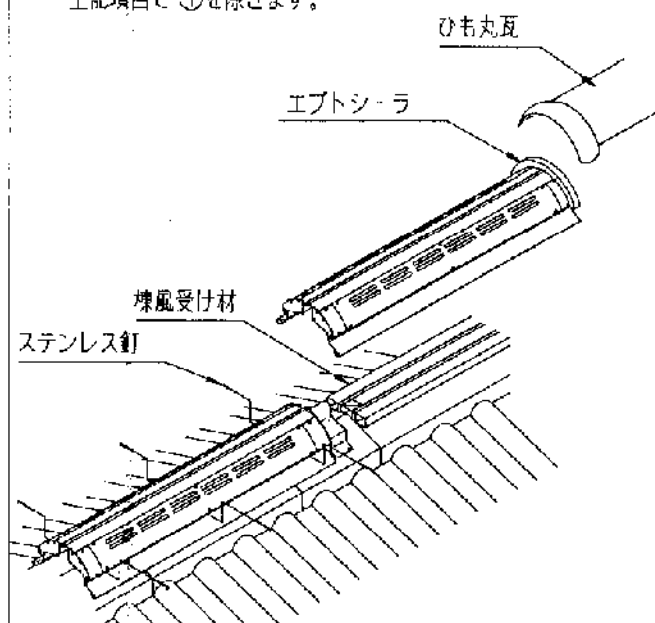
7 棟風本体の施工

【接続がある場合】

- ① 棟風相互を突き合わせ棟風受け材にセットします。
※目地は冬期4~5mm、夏期2~4mm程あけて取付けるようにしてください。(目地は後でシーリングします。)
- ② 棟風の水平を確認した上で両端4ヶ所を付属のステンレス釘で仮止めします。
- ③ 両端に付属のエプトシーラーを取付けひも丸瓦をのせ、ひも丸瓦のし瓦・大面のし瓦の水平・隙間・通り及び瓦と棟風の接合状態等を確認します。
- ④ 棟風の全箇所を付属のステンレス釘で本止めします。

【接続がない場合】

上記項目で ①を除きます。



8 ひも丸瓦の施工

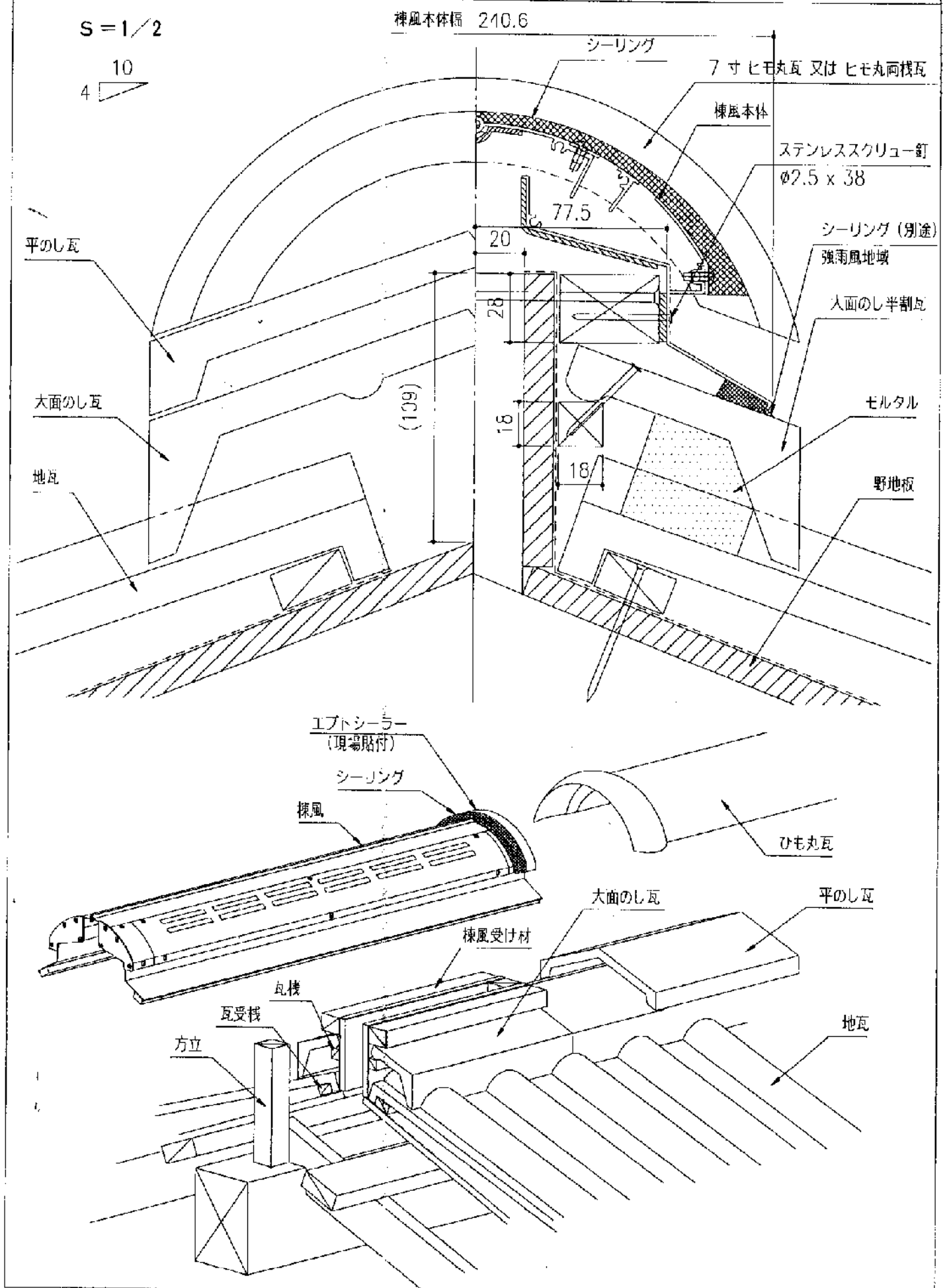
- ① 銅線をひも丸瓦の穴に通し棟風の上に乗せかけ力を加えエプトシーラーを圧縮し、ひも丸瓦の水平を確認します。
- ② 銅線を締付けしっかりと固定します。

9 シーリングの施工

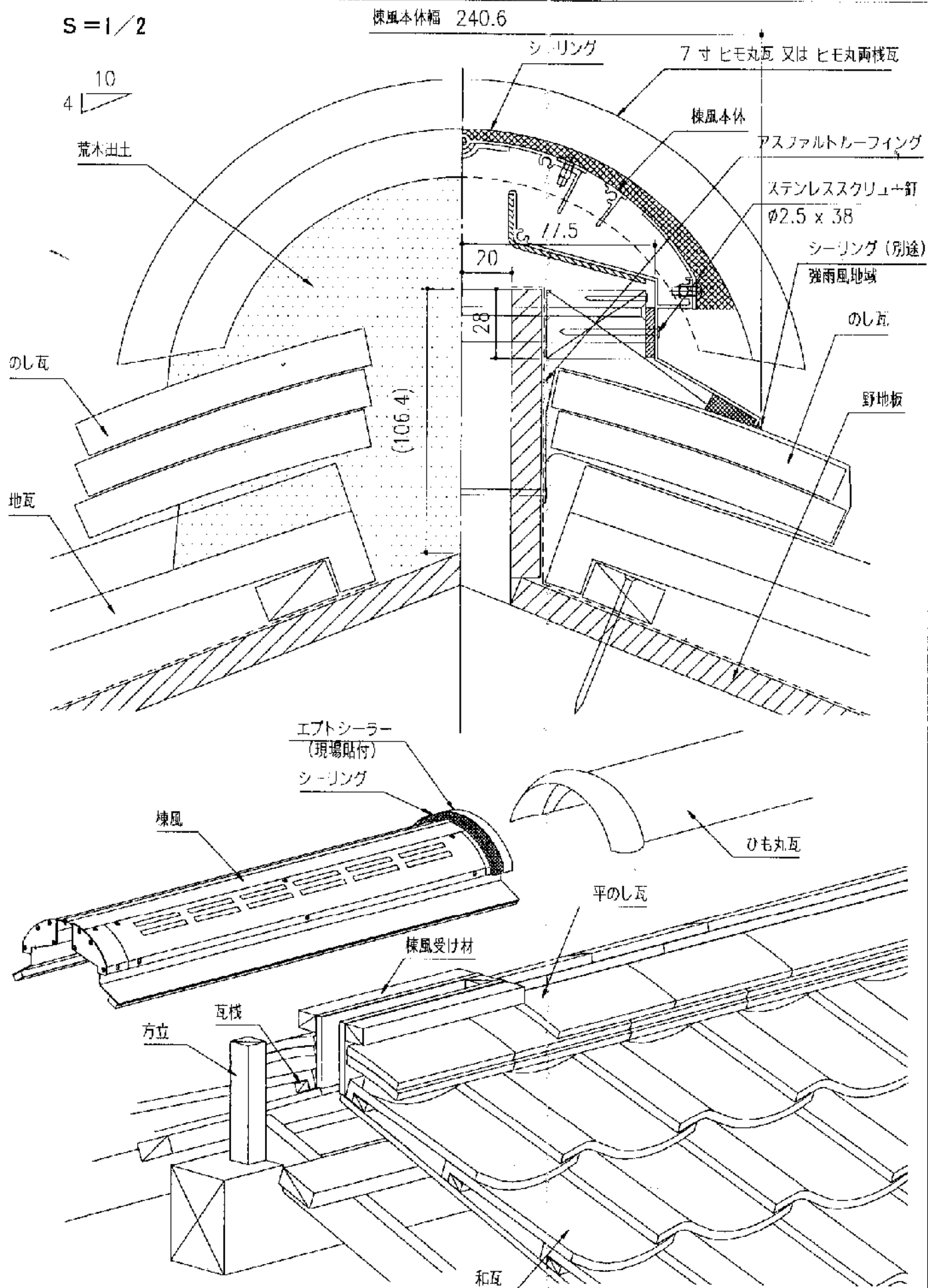
- ① 棟風を接続する場合、突き合わせ部にはシール材(シリコン系)を周囲を養生しながら充填します。
- ② ひも丸瓦の端部と棟風の隙間に、シール材(シリコン系)を周囲を養生しながら充填します。
- ③ 強風・多雨地域等、防水上特に注意を必要とする場合は棟風本体下部に別途シーリングを追加してください。

基本納まり図 (モニエル瓦)

センチュリオンタイプはエンドキャップ不要
ホームステッドタイプはエンドキャップ必要



基本納まり図 (和瓦)



基本納まり図 (コロニアル) エンドキャップが必要

